

活動 ④氷の実験成功！観察

氷が出来たことの喜びを共有しながら、察して気づいたことを伝え合う。

準備したもの 電子黒板、雑巾、白い紙

○活動内容

氷が出来たことを喜び合いながら、実際に出来た氷を観察してみる。

○保育者の問いかけやアプローチ

氷が出来たことに気付いた子ども達を中心に、クラスで共有できるよう周りの子ども達に声を掛け、観察を促す。電子黒板を使いながら細かいところまで観察し、興味関心を深められるように問いかけた。

○子どもの様子

毎朝氷を確認していた子どもたちが氷が出来ていることに気づき、保育者や周りの友だちに共有し、みんなで氷の実験が成功したことの喜びを分かち合った。その後室内に移動し、ゆっくり観察できるようにした。水で作った氷と色水で作った氷を比べた時、色水で作った氷に色がほとんどついていないことに気づき、「なんでー！？」と子どもも保育者も一緒に驚いた。なぜ色が付かなかったんだろう？という問いかけには、「もっと色を濃くすればよいのかもしれない！」という改善点も出てきた。また、少ない量で作った氷は全て凍っていたが、水の量が多かったものは上の部分だけが凍っていたことにも気付いていた。より詳しく観察するために、電子黒板を利用した。拡大してみると氷の表面が粒潰していることに気づき、「触るとつるつるなのに、大きくしてみるとつぶつぶしてる！」と見た目と感触の違いに驚いていた。また、氷を作った入れ物によっても違うのかという子どもの質問から 2 種類を比べてみた。表面がつるつるしている氷と、つぶつぶしている氷と違いが見られたことにも驚いていた。



振り返り

長い期間を掛けて氷の実験となったため、氷が出来た時の喜びは大きかった。電子黒板を利用することで、より細かいところまで観察でき、多くの気づきを見つけることができた。